



自由民主党・岩沼市民会議

佐藤 剛太



子どもが健やかに生まれ育つまちづくり

問 待機児童解消のために今後どのような計画で施策を行っていくのか伺う。

健康福祉部長 4月から、東保育所の定員を90名から110名に増員する予定です。さらに人材派遣会社の活用による保育士の確保などを行います。令和3年4月には、亀塚第一住宅跡地に建設中の保育所が、現亀塚保育所の定員より30名多い90名での開所を予定しています。そのほか、市内1カ所の幼稚園が、認定こども園に移行し、保育所機能部分を定員90名にする予定になっていますので、令和3年には、岩沼市の待機児童を解消することができると考えています。

問 今後の子育て支援拠点の整備について、どのような計画を考えているのか伺う。

健康福祉部長 令和3年4月に、亀塚第一住宅跡地に建設される保育所を含む複合施設に子育て支援センターが併設される予定です。今後、各小学校区に1カ所の子育

て支援センター機能を有する支援拠点を整備していきたいと考えています。

健康で心豊かに暮らせるまちづくり

問 今後の中学校部活動の在り方を伺う。

スポーツ振興課長 仙台大学から学生指導者の派遣をいただいています。この取組を定着させ、これ

子育て・教育のまち岩沼

からの新しい部活動のモデルになっていくものと期待しています。

問 現在、限られた種目のみで行っているが、今後、種目を増やす計画はあるのか伺う。

スポーツ振興課長 現在、部活動支援事業の内容は、大きく分けて拠点型事業と派遣型事業の2通りで行っています。部活の種目の数は増やしていきます。令和2年度において、全ての部活動をカバー

できるものと思っています。

問 吹奏楽部などの文化部はどのようなに考えているのか伺う。

スポーツ振興課長 3月から、文

化部に対する支援も始める計画でしたが、新型コロナウイルスの影響により、スタートが4月以降になるものと考えています。

問 昨年から行ってきた心のケアハウス事業「あいるーむ」の現状と、これまでの効果を伺う。

学校教育課長 現在、市内の児童生徒17名が正式に申請して通所しています。また、仮通所という形で通っている児童生徒もおりま

して、体験通所の形でも随時認めています。また、効果は、実際に通所者同士でコミュニケーションや交流を行い、そういった力が伸びてきていると感じます。実際に学校に別室登校という形で登校することができたり、あるいは通所することによって出席日数を徐々に増やしており、そういった子どもたちも増加しています。

問 今後、岩沼のシティープロモーションとして、子育て環境や教育環境の充実も大きな1つの要素と考える。今後も子育て環境や教育環境の充実を図る施策を進める

こと、「子育て・教育のまち岩沼」と誰もがわかるように広く発信をしていくべきだと考える。見解を伺う。

市長 少子高齢化が進む中で、岩沼の持ち味を出す。子育て、教育に力を入れようというのが私の狙いであり、戦略の1つです。子どもたちに不安を持たせないような教育や環境整備を行っていく考え方を進めていきたいと思えます。今後も子育て、教育を最優先に進めていきます。

- ◎その他の会派代表質問
- ・いきいきとした活力あるまちづくり
- ・安心・安全で快適なまちづくり

会派所属議員

佐藤剛太、菊地忍、酒井信幸、寒風澤敦司、大村晃一